



2025年に予定の建築基準法改正では規模に関係なく省エネ性能が求められるが、現状は国による種々の税制や補助金、住宅ローン金利などの優遇が図られており、“待ったなし”の状況になっている。これからの住処を作るには設計者もこれら専門知識と合わせて現場での指導が出来る能力が求められている。ここで紹介する工事風景は現在工事中の住宅で、当社設計の断熱・気密仕様です。昨今、住宅メーカーでは性能等級を上げる事で他社との違いをPRする風潮があるが、その分コストも上がることになる。私の思う“ふつう”・・・でない住処は双方のバランスを考え“等級5(地域6)”程度を目標としているが、最も重要なのは数値では無く“きっちりした仕事”が出来ている事と思う。



- 1・屋根断熱
- 2・気密シート
(JISA6930 適合品)
- 3・気密テープ
- 4・外壁断熱
(気密シート施工前)
- 5・気密シート施工後
- 6・設備貫通部シール
- 7・サッシ廻りシール
- 8・左官下地フェルト
は通気用特殊品



施工者は建築主指定による某大手住宅メーカーの工事を多く担当していることで、断熱工事の経験は豊富だが気密に関しての注文には、そこそこ“うるさい設計者”と言われているらしい(汗)。以前C値(気密性能)測定を行なった現場と同程度の精度かと。自宅を建築中の方は一度そちらの現場と見比べて頂ければと思います(笑)。

